

令和5年度 港区麻布町会・自治会連合会 交流会

「再開発と町会・自治会」ワークショップ

“まちづくりと住民のつながりを考えてみよう”の記録

発行：令和6年3月 港区麻布町会・自治会連合会

今年度の交流会は、港区などでまちづくりを支援する連（むらじ）さんの講演を参考に、再開発に伴う町会・自治会の課題について考え、人やまちとのつながり方とその機会の作り方について、様々なアイデアを出し合いました。

麻布地区の方々だけでなく、区内の他地区や区外から参加された方もあり、第2部のワークショップでは、様々な視点からのアイデアが出されて盛り上がりました。

今回のアイデアを参考に、みなさんのまちで何か一つでも、最初の一步を始めてみませんか。



【開催概要】

主催：港区麻布町会・自治会
連合会

日時：令和6年2月10日(土)
13:30～15:30

会場：東京ミッドタウン
タワー4階
カンファレンスルーム3・4(第1部)
カンファレンスルーム5(第2部)

参加者：42名

次第：

13:30 開会挨拶

13:40 <第1部>

再開発に関する町会・自治会の
対応に関するセミナー

14:20 休憩

14:30 <第2部>

再開発に関する町会・自治会の
対応を考えるワークショップ

～町会・自治会区域内での再開発で大切な、
対話の機会をどう作るか考えてみよう～

15:30 閉会

◆清原会長あいさつ

麻布地区内の再開発では、これまでにアークヒルズ、六本木ヒルズ、麻布台ヒルズが建てられました。

再開発が進むまちには、メリットとデメリットの双方があるので、今日はその点を話し合ってみたいです。

みんなが住みやすく、楽しめるまちにしていくために、取り組んでいきましょう。



第1部

再開発に関する町会・自治会の対応に関するセミナー

講演「まちづくりで対話の機会をつくる」

※写真提供：連健夫建築研究室

港区などでまちづくりを支援する連（むらじ）さんから、多くの再開発やマンション建設が進む港区において、建設側や新住民と周辺住民との対話がまちづくりに大切なことと、コミュニケーションの機会を如何に作るかについてお話いただきました。

【講師】 連 健夫(むらじ たけお) さん



(有) 連健夫建築研究室主宰
一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構代表理事
早稲田大学、芝浦工業大学非常勤講師
港区登録まちづくりコンサルタント、港区景観アドバイザー

1956年京都市生まれ、東京都立大学大学院修了の後、建設会社10年勤務、胃の手術がきっかけとなり、1991年に渡英、AAスクール留学、AA大学院優等学位を取得の後、同校助手、在英日本大使館嘱託を経て、1996年に帰国、(有)連健夫建築研究室設立、設計活動と共に、まちづくりにも関わっている。

赤坂通りまちづくりの会のまちづくり条例に沿った取り組み

「港区まちづくり条例」は、**地域独自のまちづくり活動を推進することができます**。赤坂通りまちづくりの会は、登録まちづくり協議会として、住民が参加して地域の特性を活かした取り組みを進めています。

対話①：まちの「タカラ（良い点）」と「アラ（悪い点）」を見つける！

- 住民自らが地域の特性を理解するために“まち歩き”を実施し、まちの「**タカラ（良い点）**」と「**アラ（悪い点）**」を見つけることが重要です。
- ゴミ、広告、ガードレールなどのポイントを探して、撮影とメモをしながら把握しました。更にグループごとに話し合っ整理し、どう取り組むとよいかを考えました。



まち歩きでまちの「タカラ（良い点）」と「アラ（悪い点）」探し

対話②：落書きワークショップをやってみた！

- 大人だけでなく、子どもも参加し、最初に壁面のバリをみんなで削り落とし、子ども達が好きなように絵を描いて楽しみました。
- 最後に、近所の建設会社から寄付してもらった塗料をみんなで塗って完成です。



↑ 消す前に落書きしちゃえ！



みんなで塗ろう！→

落書き消しが対話の機会になり、住民参加のまちづくりが進みました。

対話③：我が街ルールや通りの改善案を考えてみた！



- まちづくりのビジョン案や、我が街ルール、通りの改善案を考えました。
- その中で、旧日大三高通りの新しい名前をつけることになり、2年・3回にわたってネーミングイベントを開催し、多くの人のまちづくりへの関心を高めていきました。

対話④：まちづくり協議会が計画側と協議した！

- まちづくり協議会は、再開発の計画側と建築の計画について意見交換を行いました。
- 我が街ルールなどの検討で大切なことをまとめていた協議会はそれを計画側に伝え、その結果、デザインに要望が取り入れられました。



対話⑤：みんなで楽しく取り組むことが大事です！



- みんなが話せるように、グループに分かれて意見を地図に書き出して、どれが大切かを話し合い、共有しています。
- 先進事例を見学して学ぶと、仲間どうしの対話が具体的になります。
- 飲み会も大切な対話の機会になっています。

その他にも、いろいろな対話の機会があります

事前復興や保存のまちづくりで 対話の機会づくり

- みんなの関心が高いテーマで、きっかけづくり。
- まち歩きで現状の問題点を考えて共有し、解決案を話し合う。
- オープンスペースの大切さや日頃のコミュニティ活動の重要性を知る。



その他にも さまざまな対話の機会が！

- イベント（お祭りなど）
- 美観活動（植栽の世話、違法看板パトロール、など）
- 個人の建物の一部を地域に開放（集会室やウッドデッキ、など）
- さまざまな人が住む共助が可能な集合住宅での対話の機会



住民参加のまちづくりと、対話の機会と場の創出のポイント

【参加のまちづくり】

- 地域の**タカラ**（良い点）を活かすと共に**アラ**（問題点）を解決。
- 地域の特徴、**ヴァナキュラー**（地域性・土着性）を見出す。
- **文化の継承**という意味で歴史的視点を大切にする。
- **福祉**のまちづくりの視点を大切にする。
- **コミュニティづくり**の視点を大切にする。

対話を
通して、
方向性を
作っていく

【対話の機会と場の創出】

- まちづくり活動を通して対話の機会をつくる。
- イベントを企画して対話の機会をつくる。
- 様々な場を公共的に使う（地域開放）。
- 対話が生まれる場を作っていく。
- 様々な世代、働く人、訪問する人、新旧住民を混ぜていく。
- **ファシリテーター（促進者・推進者）**の役割が必要。



※ファシリテーター

人と人を繋ぐ役割で会話を促したり、多くの人が話し合いに参加できるよう務めたりする、議論を円滑に進めるための役割を担う人。

第2部

再開発に関する 町会・自治会の対応を考えるワークショップ

～町会・自治会区域内での再開発で大切な、対話の機会をどう作るか考えてみよう～

6つのグループに分かれ、進行係・メモ係・発表係をくじで決めて、参加者全員で対話の機会の作り方などについて、アイデアを出し合いました。

自己紹介をきっかけに、どのような対話の“機会”や“場”、“担い手・方法”があるとよいか、発想を広げていきました。

ほんの30分ほどでしたが、お住まいの地域や立場を超えてたくさんの意見やアイデアが出され、発表を通して共有しました。



進行の北島さん
(株首都圏総合計画研究所)

**ディスカッションで受けた刺激を、
対話の機会を始める最初の一歩につなげていきましょう！**

各班で出された意見・アイデアの紹介

A班

- マンションと周辺の町会・自治会との距離が問題で、情報が入ってこなかったり、入会の仕方がわからないといった話がありました。
- 以前からあるお祭りや、六本木・麻布で活発なアートイベントを対話の機会や場にできそうです。
- 担い手については、それらに住民や事業者がもっと積極的に参加してもらいたいことと、再開発でもそのようなイベントを通して、人とつながっていきたいと思います。
- 若い人とつながるにはSNSや学校に協力を求めたり、地域とつながりたい企業と日頃から一緒に取り組むとよい、といった意見が出されました。



B班

- 今、やっている対話の機会を出し合ってみました。花壇の世話や餅つき、お祭り、防災訓練、子どもと一緒にするバリアフリーパトロールなどが挙げられました。
- 道沿いの花壇の水やりにマンションの管理人の方も参加し、町会のみなさんと会話が広がっています。祭りの担ぎ手をマンションの方に呼びかけたら、20人も参加して連絡先も交換できました。
- 餅つき、防災訓練、子どもを巻き込んだ取組を頻繁に、根気よく続けることが大事だと思います。
- これからは、かわら版などの紙面の情報を Web、SNS にも流し、紙面を見る人・見ない人の双方に情報が伝えることが大切です。
- 対話をするために、最初に夢を持ちましょう！



町会・自治会区域内の再開発で 大切な対話の機会を作るアイデア

機会	場	担い手、方法
餅つき	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会
お祭り	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会
防災訓練	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会
花壇の世話	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会
バリアフリーパトロール	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会

C班

- 「防災」は対話の機会になると思います。防潮護岸の整備と開発が進む地区では、その水辺空間と商業施設が区をまたいで広がって、災害時に協力し合う場があれば良い機会になるとの意見がありました。
- 機会としてのイベントについて、餅つきや花見、お祭りには多くの人が出てくる。商店にも参加してもらって、対話の機会・場を作っていたらよいという意見も出されました。
- 多世代でコミュニケーションをとることができる場を再開発でつくりたい、ファシリテーターの“人の話を聞いて、人と人をつなぐ”役割はとても大事、といった意見も出されました。



町会・自治会区域内の再開発で 大切な対話の機会を作るアイデア

機会	場	担い手、方法
防災	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会
餅つき	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会
お祭り	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会
花見	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会
商店	マンション内	マンション管理組合、町会、自治会

D班

- 神宮外苑の再開発は地元の声が反映されず、商店街や緑が壊されていく危機感があり、他の地区でも同様の問題がありそうです。そこで、区民、区、区議会議員と事業を行う会社の対話が重要です。
- 対話の場として、それらが参加する公的な協議会が必要で、それを区がサポートすることも重要です。
- 一方で、インフォーマルな協議会も必要で、今ある郷土歴史館、学校、公園などを活用したり、パブや茶会のような区民が自由に議論できる場を区がサポートして作れるとよいのではないのでしょうか。
- まちをみんなで歩いてみたり、まちの歴史を学ぶことも大事です。地域に愛着を持つ人が増えると、対話が活発になるでしょう。



E班

- 開発のプロセス、町会の役割、住民のみなさんにどのように情報を伝えるか、の3点の話が盛り上がりました。
- 開発のプロセスでは、開発区域が定まる前から、町会が住民や区と一緒にまちづくりに取り組んだ経験を共有しました。
- 町会の役割と情報の周知については、LINE や Zoom での参加で周知しつつ、利用できない方などにはポスティングもして丁寧なコミュニケーションを心がけている、という話もありました。
- 再開発での経験について、ディベロッパーと町会、行政が連携して、いい関係で進められたケースと、対立状態で始まり、町会で呼びかけて資金を集め、一級建築士と弁護士を雇い、組織的な手続きをして解決したケースが紹介されました。



F班

- 区内外にお住まいのメンバーから、様々な状況を知ることできて楽しく議論できました。
- 小さなマンションが立地する地区は、大規模開発とは異なり、まだコミュニケーションが取れています。再開発などのまちづくりは、店舗が多いまちや、住宅が多いまちなどの特徴をふまえて進めることが大事だと思います。
- 再開発で苦労された先輩の意見を聞くのも大事です。新しい住民と従来からの住民では生活が異なり、徐々に従来からの住民が出て行ってしまう現状があり、大きな課題です。
- 共に暮らしていくために、町会の活動を新しい住民に知ってもらうことが重要との意見もありました。



町会・自治会区域内の再開発で大切な対話の機会を作るアイデア

機 会	場	担い手、方法
交流会	交流会	住民代表、管理組合
町会・自治会	町会・自治会	町会・自治会
	その他	住民の自治
	子供会	町会・自治会
	高齢者	町会・自治会
	地域	町会・自治会

連さんからひとこと

- 今日は非常に活発な話し合いができていました。同じ目の高さで話し合う、良い「対話の機会」だったと思います。
- **既存のイベント**（餅つき、花見）を大事にする・継承する、Win-Win の関係を作りやすい**商店会**を巻き込む、**若い人**を SNS や Web で巻き込む等のいろいろなアイデアがありました。
- **子ども**を巻き込むバリアフリーパトロールは良いアイデアです。まち歩きは楽しめるし、**行動しながら頭を働かす**ことは対話において重要です。
- 再開発のあるまちでは、公的な地域に根差したグループと、同じ興味を持った人が一緒に取り組むグループの2つが両輪で、まちで活動していくことが大事になってきていると思います。
- **公共の福祉**を忘れてはいけません。確認申請が通ったならなんでも建てられる考え方には、憲法に挙げられる公共の福祉に則って議論すべきです。また、今、再開発には若い人やお金のない人も住み続けられる工夫を組み込んだ計画を議論していくことが大事になってきていると思います。



<問合せ>

港区麻布町会・自治会連合会事務局：港区麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
〒106-8515 港区六本木5-16-45 電話：03-5114-8802（直通）